

## 2. ヒゲソリ石鹼 Shaving Soap

粉末状、クリーム状、棒状のものがある。この石鹼は、細くて持続性の泡を容易に生じ、刺激性が少なくて、ヒゲを柔らかにする性質が要請される。

原料としては牛脂、豚脂、ヤシ油、パーム核油、落花生油、ゴマ油、オリーブ油、硬化油などが用いられる。米国ではステアリン酸が多く用いられる。米国ではできるだけ白色の石鹼が好まれるので、この目的にはステアリン酸が最適で、牛脂は適当ではない。ヒゲソリには豊富な持続性の泡が必要であるが、この持続性の泡には牛脂、豚脂、ステアリン酸が適しており、ヤシ油の少量添加は、泡立ちをよくするが、多量加えることは皮膚刺激性を大きくするので好ましくない。遊離アルカリは絶対に排すべきで、中性か過脂肪性がよい。近時は泡の保持剤としてセタノールが添加される。

鹼化のアルカリは水酸化ナトリウムと水酸化カリウムの併用が多く、後者のみのものも多く見受けられる。

製法は冷製法あるいは半煮沸法が行われ、通常塩析を行わない。固形のものには石鹼素地を機械練法で棒状に固める。粉末状のものはグリセリンを少くした素地を乾燥、粉碎する。クリーム状のものが漸次愛用されているが、これの製法はバニシングクリームの製法に似ている。また乳液様のヒゲソリ石鹼も作られている。

### 製造例

(1) ステアリン酸	5kg	ヤシ油石鹼	30kg
グリセリン 28° Bé	100"	水酸化ナトリウム液 37° Bé	11.4"
水酸化カリウム液 39° Bé	40.2"	香料	適宜

アルカリとグリセリンの熱混液に、かきまぜながら熔融したステアリン酸を徐々に注加し、少し温めながらかきまぜて均等な石鹼にし、冷却固化させる。石鹼素地を薄片とし乾燥して、ヤシ油石鹼の薄片、香料を混和して成型する。

### (2) クリーム状のもの

ステアリン酸	30kg	落花生油	10kg
ヤシ油	14"	グリセリン 28° Bé	20"
水酸化カリウム液 38° Bé	28"	ステアリン酸	12"
水	20"	香料	適宜

ステアリン、落花生油、ヤシ油を 65° 混合熔融し 60~70° に保つ。これをアルカリ、グリセリン、水の混液を 65° に加熱したものに、かきまぜながら注加する。更にステアリン酸の熔融したものを注加しよくかきまぜる。フタをして一夜放置し、翌日もう一度よくかきまぜ、香料を同量のアルコールに溶かしたものを加えてかきまぜる。翌日クリームを陶製の器に移して更によくかきまぜ 10~14 日間放置する。その間毎日一回ずつ木の棒でかきまぜる。

### (3) クリーム状のもの

豚脂	80部	水酸化カリウム液 38° Bé	160部
オリーブ油	100"	グリセリン	25"
牛脂	75"	水	15"
ヤシ油	60"	ステアリン酸	10"

### (4) 乳液状のもの

ステアリン酸	5kg	ヤシ油	5kg
水酸化カリウム液 38° Bé	5"	ラノリン	0.25"
グリセリン	5"	水	40"

アルカリ、グリセリン、水の混液を 70° に加熱し、油脂類を混合熔融して同温にしたものを、かきまぜながら徐々に注加する。かきまぜながら冷却する。適当に香料を加える。

## 3. 水石鹼 Liquid Soap

液体石鹼、液体ハンド石鹼とも呼ばれる、滴ビン式の器に入れて、手の洗浄に多く用いられる。精良なものは洗髪にも用いられる。粘度が小さく透明で、低温でも濁ったり沈澱を生じないものが良い。一般にカリ石鹼の 20~30% 水溶液が多く、外国ではヘキサリン、メチルヘキサリンその他の有機溶剤を加えたものがある。これらの添加物は、アルカリ土類石鹼を溶かす作用